
鉾山研究会

ニューズレター No. 8 2

2010年9月10日

1 釜石鉾山跡見学会の報告

① 概要

② 見学会の感想

トロッコ軌道は未来へ続く

小出五郎

釜石見聞録

友澤悠季

釜石鉾山見学記

川俣修寿

釜石合宿に参加して 付 小黒部鉾山（菊池今朝和さんのいる劔岳・池ノ平小屋）を訪ねて

橋本邦子

釜石鉾山見学会に参加して

安東裕世

2 ホームページ継続についてのお知らせ 村串仁三郎

3 第28回鉾山の映像を観る会のご案内 丸山もところ

4 海外鉾山文献読書会のご案内 丸山もところ

5 多重投稿についての会長として所信 村串仁三郎

6 事務局からのお知らせ

① 『鉾山研究』誌の原稿募集について

② 新会員の紹介

鉾山研究会 連絡先

会長 村串仁三郎

〒270-0127 流山市富士見台2-5-16-13-401

電話・ファックス 0471-52-8952

メール・アドレス murakushi@par.odn.ne.jp

事務所 国学院大学、若木タワー第913号、菅井益郎研究室

〒150-0011 渋谷区東4-10-28

1 釜石鉱山跡見学会の報告

① 釜石鉱山見学会の概要

釜石鉱山見学会は、東京産業考古学会から8名、小野崎会員の紹介から5名、鉱山研究会から15名（遠田義則、川俣修寿、長渡隆一、杉本賢治、村田弘一、久保敦子、橋本邦子、本田正男、友澤悠季、中山喬央、安東裕世、丸山もところ、竹村恒彦、小野崎敏、村串仁三郎、）が参加し、合計27名の参加で、盛大な釜石鉱山見学会がおこなわれました。見学会を組織していただいた元釜石鉱山社長の小野崎敏会員のあらためてお礼を記させていただきます。

参考のため日程と参加者の感想などを紹介しておきます。

日程

2010年7月17日（土）—18日（日）

初日 はやて11、東京発、9時16分—新花巻着、11時47分

新幹線新花巻駅—釜石間は現地チャーターバス利用。

新花巻駅、12時15分出発—釜石鉱山、13時30分頃着。

釜石鉱山坑内外見学、約3時間。

釜石鉱山発、16時30分発、釜石市内へ。

18時、釜石市内の「魚貞」にて会食。

会食前（30分）、小野崎敏氏講話「釜石（旧大橋）鉱山について」の講話。

夕食・宴会。18時30分—20時30分、お開き。

ホテル・サンルートにて宿泊。

2日

朝9時ホテルスタート、鉄の歴史観、見学（1時間程度）。

10時、現地研究者森一欽氏による館内案内。

11時30分発、橋野高炉跡の見学へ（工程2時間程度）、

途中、根浜海岸「宝来館」にて昼食。

12時50分橋野高炉跡へ出発。13時30分橋野高炉跡着、約1時間見学

14時30分、橋野高炉跡発し、遠野へ。

15時、遠野着、河童ぶちなど、1時間程度散策。

16時頃、遠野出発。17時頃、新花巻着。解散。

② 参加者からの見学会の感想

トロッコ軌道は未来へ続く

科学ジャーナリスト 小出五郎

（この稿は、研究会員ではないが、釜石鉱山見学会に参加された小野崎会員

の友人からの投稿である。)

私は、実は「閉所恐怖症」に悩む。狭いトロッコにすし詰めになって、北上山地の背稜に掘り抜かれた暗闇のトンネルに行く。その時間に耐えるのは辛い試練だった。気がつくやうに、額に脂汗がじっとり。

しかし、私の秘かな忍耐は十分に報われた。それも想像していた以上に。

トンネルの奥に、かつて採鉱の行われた現場が保存されている。壁面に残る磁鉄鉱を含む鉱石の層、鉄鉱石を集める縦坑の深い穴、小原京蔵さんの実体験に基づく音吐朗々の臨場感あふれる解説、坑内から湧きだす弱アルカリ性の清澄な美味しい水、空洞の湖を利用した地下水力発電所など。地下の坑内で繰り広げられてきた人間の営み、その時間の蓄積を肌で感じる事ができた。この感動をみんなに伝えたい。特に未来の主役となる若者たちに伝えたい。私は心の底からそう思った。

新自由主義という名の弱肉強食モンスターが日本を席卷している。企業は「ぜい肉」を落とす「改革」に必死だ。正社員を減らし、経費を極力切り詰める。短期的利益につながらない社会貢献事業はカットする。「改革」の進行が株価の上下に反映し、経営者の評価に直結する。結果は、深刻な格差社会である。

少数の勝ち組が生れ、圧倒的多数の負け組は将来の安心を失った。

多くの若者は未来に夢を感じていない。私たちは、こんな社会を望んで今日まで生きて来たのだろうか。

明るいニュースの少ない世の中であって、釜石鉱山の坑内見学は、企業魂がまだ絶滅していないことを感じさせる清涼剤だった。その努力に感謝したい。

坑内見学を維持するにはかなりのお金がかかるに違いない。企業の負担は重い。経費削減のためには、閉鎖を選択した方が絶対にいいはずだ。鉱業法の制約を考えればなおさらだろう。少なくとも短期的には。

しかし、中長期的に見れば、坑内見学の維持は大きなメリットを生む可能性に満ちている、と私は思う。

維持の努力は企業の魅力である。世間の好感度がアップする。人を惹きつける。何よりも若くて優秀な人材が集まる。

釜石の地域振興につながる。オンリーワンは何につけても観光の目玉だ。坑内見学に日本各地から人が来る。海外からも来る。人が集まれば地域の雇用が増える。新しい業種が誕生し、企業の繁栄につながる。好循環への起爆剤にもなる。

投資の見返りは多分大きい。そして、いま決断の時である。カギは小原京蔵さんのような人材だ。人材が元気いっぱいの際に後継者を育てなければならな

い。

地域社会、日本社会に今様の経済貢献することは、地域社会の未来に生命を吹き込むことにつながる。幸い地元の釜石市は地域の文化遺産を活かそうという溢れるばかりの熱意がある。

そのパートナーシップの未来に大いに期待したい。

釜石見聞録

友澤悠季

2010年7月17日から18日にかけて、釜石鉱山坑内と周辺の遺構をみてあるく「釜石見学会」が行われた。

集合は17日12時、新花巻駅にて。チャーターバスに乗り込み、釜石鉱山へ向かった。鉄の採掘は1993年に終わり、現在は鉱泉水「仙人秘水」の製造・販売と、地下水力発電の事業などが行われている。到着後まずは、作業用トラックを改造した「はまゆり」で坑内へむかう。ガタゴトという音や揺れなどがかなり大きく感じられたが、本物はこの比ではないそうだ。坑内はとても寒く、気温は10℃前後。切羽や採掘・発破につかう機械などを見学し、最後は採掘跡の空洞を利用した地下水力発電所の場所にご案内いただいたのだが、見学の最後のほうは震え気味だった。とはいえ、親子3代続けて鉱山で働いてきたという小原京蔵（59歳）さんのお話は実に臨場感あふれるものだった。採掘という作業はつまり自分がいる空間を変形させることであり、何をするにも危険が生じる。ダイナマイト発破の際、必ずベテランと若手が一組になり、最後は麻縄を一気に鉋で切り落とす。その仕草と語り口がにじませる説得力に、文字ではなく体に根付いた智慧、技能のちからを感じ入った。このほか、元・鉱山事務所を利用した釜石鉱山資料室、大橋高炉跡（1857年の洋式高炉による初出鉄の地）ズリ山、山神社を見学。選鉱場跡の巨大さにはむろん圧倒されたが、夏の緑に深く覆われて、堅牢な表情は和らいでいた。夕方、三陸の海に面した新日本製鉄（株）釜石製鉄所前に到着。後背地の「ノロ山」は、製鉄スラグがうずたかく堆積してできたものだという。「往時は熱を持ったままの真っ赤なスラグで山が燃えているようだった」と小野崎さん談。懇親会の中では、釜石市教育委員会の方々から釜石の産業遺産をどう活かせばよいかと投げかけられた。地酒「浜千鳥」とホヤ、マンボウの美味しかったこと…。

18日の午前はず「鉄の歴史館」の見学とレクチャー。立体模型も含むシアターなど子供むけの工夫も随所に見られた。釜石シープラザ、昼食を経て、午後、橋野高炉跡へ向かう。ここでは石造りの高炉跡3基を見ることができたが、高炉跡そのものだけでなく、そもそもどこから石を切り出し、鉄を砕き、どの

ように水を流していたのかと〔？〕などの、モノと作業の流れが、発掘調査に長く関わられた森さんの口から次々と語られた。それらの事柄がほぼ一からの発掘の労苦によって判明したことにはっとさせられた。文書や図絵にあれども、正確な場所がわからないといったことが多いことに、初めて思い至ったのだった。もしも一人で訪れていたら、漫然と石だけを眺めて「見た気分」になっていただろう。

筆者のような門外漢が、こうしたベテランの方々とご一緒しながら現地を歩けるチャンスはそうあるものではなく、たいへん刺激に満ちた2日間だった。現地でさまざまなコーディネイトをしてくださった小野崎敏さん、坑内のご案内を頂いた小原さん、休日返上でお付き合い頂いた釜石市教育委員会の森一欽さん、そして行程全体をひっぱってくださった村串先生に、重ねて御礼を申しあげたい。

釜石鉱山見学記

川俣修壽

釜石は今回で3回目ですが、前回2回（93年7月17日、98年10月12日）は採掘中だったので鉱業所の事務所にも職員の方が大勢いて活気があった。今回、その事務所が「旧釜石鉱山事務所展示室」に衣替えとなり、管轄も市教育委員会に移っていた。

事務所2階は、「鉱山の学校」「鉱山の展示室」「鉱山の図書室」「鉱山の電話交換室」「鉱山のギャラリー」に整備され、以前の鉱山関係の「道具箱」とは違った趣となっていた。また、1階奥に「鉱山の病院」が開設され往時を再現した。

小野崎さんも住んでいた鉱山長住宅が取り壊されたのは、残念至極だったし保存されていた鉱石や調度品などはどこに行ってしまったのか気になった。前回来た時も錆びていたはずの機械・道具類も、使われなくなると死んだように見えたのは気のせいだろうか。

「鉄の歴史館」は展示ががらりと変わって「大島高任」に焦点を当てていたのは好感が持てた。

私が最初に三陸地方を訪れたのは92年9月19日、20日陸前高田市で開かれた「みちのくの金と鉄」のフォーラムだった。その時、前会員の岡田広吉氏が、「陸奥の鉄がテーマなのに大島高任の名前が一度も出ないのはおかしい」としきりアピールしていた。

しかし、この再評価が観光客目当ての「世界遺産」がらみでないことを願いたい。

市職員の皆さんから、釜石再生の方策を尋ねられたがどの町にも活性化の特効薬はなく、小さな努力の積み重ねが釜石のブランド力を高める。その意味で、橋上市場の廃止は大きな傷手です。

一つ気付いた点を記せば、「おもてなしの心」が釜石には不足しているように思う。顧客満足度を上げないとリピーターは増えない。リピーターが増えないとクチコミが広がらず、観光客も増加しない。私たちは市役所、博物館をはじめ全て特別待遇だったが、普通の観光客にも同様に接することが、意外に活性化の近道かも知れない。

思えば、小野崎会員には釜石の他葛生など、日鉄鉱業関係の施設見学に多大な便宜を図っていただき、会運営に協力してもらっています。改めてお礼を申し上げます。

釜石合宿に参加して

橋本邦子

夫 橋本康夫が亡くなって、もうじき一年になろうとしています。葬儀等への参列のほか、お手紙をくださったり追悼文をお寄せくださったり、皆様に愛していただいたことに、この紙面をお借りして改めて心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今回、鉱山研究会を相続して、初めて合宿に参加しました。釜石鉱山合宿は今回で3回目だそうです。確か小野崎さんが社長就任の時期と重なった合宿では、大盤振る舞いに与ったと聞いています。(その節は夫がお世話になり、ありがとうございました。)

小野崎さんが釜石観光大使ということで、市長さん始め市教育委員会の皆様、釜石鉱山の皆様に手厚く歓迎していただきました。特に教育委員会の森一欽氏には豊富な歴史認識の下、懇切丁寧な解説をいただき感動と共に感謝申し上げます。一日目の夜の会のスナックでの熱弁には、思わず、本田さんに「こんなところに埋もれているのは惜しい。」と言わしめる程でした。

私としては、坑内見学ができたこと、磁鉄鉱石を拾えたことが嬉しかったのですが、何と言っても橋野高炉跡では江戸時代の人々の叡智、努力に感銘しました。また鉄の歴史館で、初出銚の鉄が、安産のお守りとして祀られて残存していたことに感激しました。

新日鉄釜石に以前行った時は、駅前に高炉があり、華やかに稼働していました。今は駅前の広場にモニュメントとして高炉の火が燃えているだけ。橋上市場も無くなり、隔世の観は否めませんが、釜石鉱山の方が「できる限り後生の

人達に伝えていきたい。」という言葉に、厳しいことながらも心からエールを送りたいと思いました。

小黒部鉦山（菊池今朝和さんいる劔岳 池ノ平小屋）を訪ねて 橋本邦子

この夏、夫の友人の菊池今朝和さんを訪ねて、池ノ平小屋へ行ってきた。（リードは川俣さん）

池ノ平小屋は劔岳の北東、八ツ峰の裏側（と言っていいのか）、池ノ平山と仙人山の鞍部、標高約 2,100m に位置する。馬の背にちょこんと乗るように建っている赤い屋根の山小屋だ。見晴らしは素晴らしく、晴れると北アルプスへの連なりが美しい。八ツ峰の上部に残る雪渓が、「唇」のように見えることから菊池さんが「モンローの唇」と名付けたという。

行ったのは 8 月 16 日。前日は真砂沢ロッジ泊。その日は雨模様。ゴアテックスの合羽を着てても、中は蒸れて汗びっしょりだ。途中まで菊池さんが迎えにきて下さった。急な仙人新道を登って 3 時間弱で小屋着。「よく歩いた。」と言われたが、あまりのきつさにしばし口もきけない。山では水は貴重だが、ここ池の平小屋は水利に恵まれ、お陰で毎日お風呂の恩恵に浴した。菊池さんは 2006 年からこの小屋番をしているという。小屋の仕事や道の整備などで、休む間もなく動いておられた。夜はいっぱい呑んで楽しく語り合った。

実はこの池ノ平小屋は、前身は輝水鉛鉦（モリブデン）を採っていた小黒部鉦山の作業基地だった。鉦山と小屋の歴史は、池の平小屋の HP に「池ノ平小屋小史」（上田頴人著）として掲載されているのでご覧下さい。

標高 2,100m もの高地、しかも険しい山越えをする鉦山は、食料や道具や機械を運ぶのにも、鉦石を下ろすのにも、人が行き来するにもどんなに厳しいものであったかは想像に難くない。案内していただいた 2 つの坑道には、当時使用された機械の残骸がサビついて残されていて、こんな所で掘っていたのかと驚嘆してしまう。しかし、モリブデンの黒く輝く片の入った石が拾えるのは、何とも目の輝くような話である。実は小屋のすぐ上のキャンプ場やヘリポートの整地した石の中には、このモリブデン片がいっぱいあり、それを拾うだけでも楽しい。是非行ってみてほしい。

池ノ平小屋では天気にも恵まれ三泊した。帰りは仙人温泉小屋を通り、ヒカリゴケを見て、雲切新道を下りて帰ってきたが、これまたきつかった。下りてから岩山の滝のような流れを見上げて、この道を下りてきたのかと思ったら、自分は「山女」になったんだと感激した。本当にけがもなく行ってこられたことは奇跡である。感謝。

さて、こんな厳しい登り下りはあるものの、池ノ平小屋は素晴らしい所だし、モリブデン採取に魅力ある山である。そこで、こんなことを考えてみた。いかがだろうか。

「池ノ平小屋及び小黒部鉱山探訪仕様書；参加費…1人15万円

内訳：① ヘリコプター運賃（1回30万円 パイロットを入れない5名で分担するから、6万円×往復）、② 小屋泊3泊 8,500円×3泊、③ 雑費。

＊ただしヘリコプターから15cm位飛び降りたり、飛び乗れることが条件である。」

釜石鉱山見学会に参加して

安東裕世

7月17日、18日の釜石鉱山見学会は本会会員以外の参加者も多く、総勢28名での見学旅行となった。新花巻駅に集合し、バスで釜石市へと向かった。

釜石鉱山に到着すると、崖面の選鉱場跡の存在感にまず圧倒された。資料館での説明の後、ヘルメットとウインドブレーカーを身につけてトロッコ「はまゆり号」に乗り、いよいよ坑内の見学である。かなりの時間トロッコに揺られ、まずは仙人秘水の製造工場のそばで湧き出す仙人秘水を飲んだ。再びトロッコに乗って、次は機械を展示して採鉱の様子を再現している場所を見学した。ここでは、実際に鉱山でお仕事をされていた方からお話を聞かせていただき、坑内で聞いたこともあって採鉱作業が身近に感じられた。また、側壁にはマグネットがいくつか貼り付けてあり、見た目にも面白く、そして磁鉄鉱であることが実感できた。大きさの割にずしりと重い鉱石をいくつか、お土産にいただいた。さらにトロッコで移動して最後に見学したのは、地下水力発電の貯水池である。まるで天然の鍾乳洞のようでこんな大きなダムが地下にあることに驚き、これは一番小さい空洞だと聞いていっそう驚いた。この貯水池の見学の頃には、最初は涼しく感じていた坑内の寒さに体が冷え切ってしまい「そろそろ出たいな」と思い始めていた。筆者は坑内の温度については「炭坑の中は暑い」ということを知識として知っていた程度なので、夏でもこんなに寒い(年間通して10℃前後とのこと)のは意外であった。外に出てみると、坑口周辺は温度差のため霧がかかっており、坑口に掲げられた「今日も御安全に」の文字もかすむほどであった。

その後資料館と山神社を見て1日目の見学は終了となった。資料館は鉱山に直接関係する資料だけでなく、事務室や病院で使われていた資料も展示して当時の雰囲気再現しているのが印象的であった。

2日目は鉄の歴史館と橋野高炉を見学し、1日目の鉱山と製鉄とを関連付けて理解することができた。橋野鉱山の見学の後釜石市を離れ、遠野に立ち寄った後

新花巻駅で解散となった。鉱山・製鉄関係の見学はもちろん、ホップ畑やリアス式海岸の風景を初めて見たこと、ホヤとマンボウを初めて食べたことなど多くの新しい経験をすることができ、大変充実した2日間であった。

最後になりましたが、釜石鉱山の皆様をはじめこの見学会でお世話になった方々に心より御礼申し上げます。

2 ホームページ継続についてのお知らせ 村串仁三郎

前号のニューズレターの総会報告で、「ホームページの利用状況、アクセス数と管理者不在の現実が事務局から報告され、それを元に討議されました。既にあるホームページを閉鎖するのは時代の流れに逆行するのではないかなど意見が出ましたが、結局積極的に担当したいという申し出もなく閉鎖を事務局から提案しました。村串会長から、雑誌に活動報告を載せれば国会図書館の雑誌記事データベースに採録されるので、それで代替したいと補足的に説明がありました。」と報告されました。

しかし、その後開かれた第28回鉱山の映像を観る会で、私から、ホームページ継続の必要について提案し、皆さんから同意をえました。ホームページの内容については問題がありますが、とりあえずしばらく継続することにしました。ご意見などありましたら、お寄せ下さい。

3 第28回鉱山の映像を観る会のご案内 丸山もとこ

「鉱山の映像を観る会」は故橋本康夫会員の呼びかけによって始まりました。その橋本会員が亡くなられて早1年が経とうとしています。次回はまず、**故橋本会員を偲んで**、足尾関係の映像を一本上映します。

次に、鉱山を文化財として取り上げたテレビ番組を紹介します。

かつては鉱山関連の文化財というと、鉱山跡が「史跡」に指定される程度でしたが、今は違います。1998年に三池炭坑宮原坑と万田坑が、鉱山施設として初めて国の重要文化財に指定され、1996年に国の登録文化財制度が始まると、翌年から毎年のように鉱山関連施設が登録されています。その対象は事務所、

堅坑櫓、巻揚機室にとどまらず、坑口や坑道にまで広がっています。そして 2007 年石見銀山が世界遺産に登録されると、歴史的鉱山が文化遺産であることが一般に広く認知されるようになりました。そうした流れを受けて制作された番組を上映します。

【日時】2010 年 10 月 2 日（土） 開場 13:00 上映開始 13:30 解散 17:00

【会場】渋谷勤労福祉会館（渋谷区神南 1-19-8）2F 第 3 洋室

【会費】無料

【上映内容】

13:30～14:10 「地球・ふしぎ大自然 人が育んだ日本の緑（1）帰ってきたツキノワグマ 足尾銅山の森」NHK 制作，2005 年 2 月 28 日放送，約 40 分．

14:20～16:40 「歴史 ROMAN 産業遺産」全 12 回，日経 CNBC 製作，2008 年放送．より「第四回：夕張炭鉱」、「第六回：石見銀山」、「第十一回：鉱山町に造られた理想郷 工業都市 日立」，各約 46 分．

※解散後、懇親会を予定しておりますので、お時間のある方はご参加ください。

※ご意見ご要望のある方は、〈jmrs.eizonokai@gmail.com〉までご連絡ください。

4 海外鉱山文献読書会のご案内

丸山もとこ

9 月 1 日に原稿

5 次回の研究会について

秋に予定していた定例の研究会は、以下の理由で中止します。10 月ころ

の定例の研究会には、会員の平井陽一さんに、三池争議について報告してもらう予定にしていたが、たまたま法政大学の大原社会問題研究所が、三池争議50周年の他の事業との記念行事の抱き合わせで、シンポジウムを開催します。このシンポで、平井陽一さんが、三池争議について報告されるので、重複をさせて、鉱山研究会としては、このシンポに参加することで、定例研究会に替えることにしました。会員の了解をえたいと思います。

大原社会問題研究所主催

資料展示とシンポ「三池争議と向坂逸郎」

資料展示、10月13日～23日

法政大学市ヶ谷キャンパス、ボアソナードタワー14階「博物展示室」

映像展 10月16日（土）

法政大学市ヶ谷キャンパス、外濠校舎S306教室 上映時間；13.00～18.00

熊本放送テレビ「月が出たでた」 1時間

映画「三池～終わらない炭鉱の物語」 1時間40分

映画『魂のウタ～荒木栄の歌が聞こえる』 1時間35分

映像ミニ・シンポジウム 10月17日（日）

法政大学市ヶ谷キャンパス、ボアソナードタワー14階、共同実習室
時間；13.00～16.30分

『月が出たでた』が記録する三池炭鉱史—記録と記録としてのテレビドキュメンタリー

パネリスト；井上圭子（熊本放送）

コーディネーター；小林直毅（法政大学教授）

シンポジウム 10月23日（土）

法政大学市ヶ谷キャンパス、外濠校舎S306教室

時間；13.00～17.00

報告1 平井陽一（明治大学教授） 「三池争議とは」

報告2 石河康国（労農派研究家） 「向坂逸郎にとっての三池」

（平井氏は、鉱山研究会の会員であり、三池争議研究の第一人者で『三池争議一戦後労働運動の分水嶺』（2000年、ミネルバ書房）の著書がある。）

何れも入場は無料です。鉱山研究会のみなさんがたの参加を期待します。

〔このシンポジウムを例会とします〕 （村串記）

6 多重投稿についての会長として所信 村串仁三郎

わが会誌『鉾山研究』に掲載されたある論稿について、多重投稿の疑いがあるとの指摘が会員から二つほど寄せられました。

本会の会長としては、この問題について所信を述べておきます。

他の学会、研究会などでは、会誌の投稿規程にとくに多重投稿を禁止し、加えて多重投稿された場合の罰則規定などがあるところもあるやに聞いておりますが、本研究会には、そうした規定はありません。

したがって本会では、多重投稿の疑いがある論文にたいして何らかの判定を行なうことはできません。ただ二つの点だけは、研究会として確認しておきたいと思います。

第1に、多重投稿論文は、論文内容の盗作、無断引用などと違って、犯罪的な行為ではなく、そうした観点から、糾弾されるようなものではないと思います。

第2に、しかしながら、あまりに多くの場に同じような論文を投稿することは、常識的にみて芳しくない、という批判はありうると思います。また、多重投稿の論文に掲載した場合、他の学会、研究会から批判もありうるでしょう。

しだかつて、わが研究会会員は、こころして複数の場への投稿については、常識的な配慮をお願いしたい、ということです。

今後、研究会内で、いろいろ意見がだされるかもしれませんが、とりあえず、会長としての所信を述べさせていただきます。

2010年7月1日

鉾山研究会会長 村串仁三郎

7 事務局からのお知らせ

①『鉾山研究』誌の原稿募集について

『鉾山研究』誌73号の原稿を募集します。

締め切りは、編集者が12月から2月15日まで日本に不在のため、今年は12月15日とします。ご注意下さい。

次号『鉾山研究』誌は、釜石鉾山見学を基礎に「釜石鉾山小特集」とします。以下の論稿を予定しています。

「釜石鉾山と釜石鉄道」（特別寄稿）	森一欽（釜石市教育委員会）
「釜石鉾山資料室の設立について」	小野崎敏
「釜石鉾山紀行」	中山喬央、村串仁三郎

より多くの皆様方の投稿を期待しています。

② 新入会員の紹介

品田光春

友澤裕季